

平成28年度運行分系統別利用実態（公表シート） 様式2

系統名	御殿場線			事業者名	富士急行株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	御殿場駅	裾野駅 入口	三島駅		
系統キロ程 (km)	21.8	輸送量 (人/日)	23.8		
平均乗車密度 (人/便)	3.4	運行回数 (回/日)	7.0		
公共・拠点施設	学校	日本大学、日大三島高校、三島北小・中学校、徳倉小学校、裾野西小学校、神山小学校、富士岡小・中学校			
	病院	大橋医院、神山復生病院			
	商業施設	ヘルシテイ、時の栖			
	その他	裾野市役所、裾野市営プール、裾野市民文化センター、県御殿場庁舎、三菱アルミニウム、矢崎部品、トヨタ自動車東日本、岡村製作所			
収支率 (%) (収益/費用)	49.0		乗車人員 (人)	74,247	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点3 バス停9	名称	拠点：JR三島駅、JR岩波駅、JR御殿場駅 バス停：東し入口、三菱前、佐野、復生病院前、かまど中、萩芙蓉台、裾野駅入口、裾野文化センター、森の腰		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	32.4				
増収策	<p>ア. 補助制度を活用し、低床バスを導入した。(大型超低床：2両導入、中型超低床：2両、小型超低床：2両)</p> <p>イ. 需要創出のため、幹線系統と域内系統の役割/機能を整理、路線再編を実施した。 ①御殿場北部エリアや小山須走エリアの生活交通ネットワーク構築と山梨の内野地区の新規需要を創出するため、幹線バス・河口湖線の内、御殿場プレミアム・アウトレット発着便(8.5往復)の経路変更と、チアーズガーデン循環線の不採算便(日中便)を活用した路線再編を行った。(H27.11実施) ②小山町地域公共交通総合連携計画(地域公共交通網形成計画策定予定)に基づき、町営バスとの連携によるエリア再編を実施した。(H27.10実施 町営・新コミュニティバス2路線新設) ウ. 地域との連携や自社スケールを活用してのセールス展開 ①関係自治体と連携してバス時刻表・乗り方案内のツールの小山町内全戸配布を実施。 ②利用のきっかけづくりのため、小学生を中心にバス乗り方教室を実施。 (御殿場市内小学校×5件、小山町内小学校×5件) イ. 利用者に対応した取り組み ③高校新入生用のリーフレット配布活動を実施。(4校) エ. 利用者に配慮した取り組み ①管内のWE B時刻表・運賃検索システムを導入した。(H28.10実施) ②接客コンテスト開催による乗務員・窓口係員の「おトク」別強化を図った。 オ. イベント等への積極参加・団体等へのセールス・PR活動 ①小山町各支所でシルバー定期の出張販売を毎月実施。 ②「時の栖」における冬季イルミネーションに作品出展。乗合バスをアピールした。 ③国立中央青少年の交流家のイベントに参加し、バス乗り方教室を開催。 ④地元FM放送を活用し、乗合バスPRのCM放送を継続実施。</p>				
費用削減策	<p>ア. 燃料、オイルその他修繕部品等、車両購入の購入に加え金額が多い備品等について、富士急グループ全体で一括仕入れ実施や比較購入の徹底を図りコスト削減を図る。</p> <p>イ. アイドリングストップ強化月間の実施や幹部職員による点呼など、乗務員・職員への声掛け、街頭調査による注意喚起により、費用削減を図った。</p> <p>ウ. ドライブレコーダ(H25年度内で全車搭載済み)を活用し、事故防止に役立てることで事故による修理費等の削減を図った。</p> <p>エ. 車両の更新により、燃費効率の向上と修繕費の削減を図った。</p> <p>オ. 路線の機能整理において、幹線バス「河口湖線」の御殿場プレミアム・アウトレット便(8.5往復)を活用/コース変更し、幹線バス「滝の原線」の運行を効率化・減便した。(H27.11、H28.4実施)</p>				
沿線市町のサポート	<p>【三島市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要交通結節点である新幹線三島駅を発着する幹線であることを生かし、新幹線通勤・通学者の二次交通としての利便性向上を図る方策を事業者と検討。世界遺産登録された富士山観光の二次交通としての利便性向上を図り、需要を掘り起こすための方策として、駅前ロータリーの整備等を進めている。 <p>【御殿場市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度策定した地域公共交通網形成計画において、広域的幹線として改めて位置付けを行い、公共交通に対する利用者意識の啓発と利用促進について目標と施策の設定を行った。 ・支線系統等の地域内交通ネットワークの新設・再編等を検討する場合において、幹線系統への乗り継ぎ・連携を考慮して検討を行う。 ・時刻表配布等の交通事業者の取り組みへの協力や、市広報紙やホームページ等の広報媒体の活用による公共交通の利用促進、啓発を実施する。 ・平成28年度事業開始する「御殿場市高齢者等タクシー及びバス利用料金助成事業」においてバス乗車及びシルバー定期券購入助成を行うことにより、交通弱者への利用促進、啓発を実施する。 <p>【裾野市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・路線バス時刻表を市内公共施設へ配布。 ・裾野市HPに路線バス時刻表を掲載。 ・裾野駅南北循環線エリア外の高齢者へバス・タクシー利用助成券を交付。 ・幼稚園・保育園児を対象としたバスの乗り方教室を実施。 ・乗降調査結果から、利用者のニーズ把握に努める。 				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

平成28年度運行分系統別利用実態（公表シート） 様式2

系統名	駿河小山線			事業者名	富士急行株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	御殿場駅	一色	駿河小山駅		
系統キロ程 (km)	11.8		輸送量 (人/日)	43.7	
平均乗車密度 (人/便)	3.1		運行回数 (回/日)	14.1	
公共・拠点施設	学校	御殿場小・中学校、御殿場高校、高根小・中学校、明倫小学校			
	病院	救急医療センター			
	商業施設	ハクドラック、マミー、セルバ、道の駅ふじおやま、コメリ、丸善食品			
	その他	郵便局（5件）、御殿場市役所、小山町役場、小山消防署、コミュニティセンター、御殿場保健センター、小山町ふじみセンター			
収支率 (%) (収益/費用)	50.7		乗車人員 (人)	104,414	
乗換可能なアクセス拠点等	拠点2 バス停7	名称	拠点：JR御殿場駅、JR駿河小山駅 バス停：湯沢、御殿場小学校前、上町、仲町、小山町役場、上合、佐野川		
広域利用状況 (%) (他市町へ行く利用者の割合)	30.7				
増収策	<p>ア. 補助制度を活用し、低床バスを導入した。（大型超低床：2両導入、中型超低床：2両、小型超低床：2両）</p> <p>イ. 需要創出のため、幹線系統と域内系統の役割/機能を整理、路線再編を実施した。</p> <p>①御殿場北部リアや小山須走エリアの生活交通ネットワーク構築と山梨の内野地区の新規需要を創出するため、幹線バス・河口湖線の内、御殿場プレミアム・アウトレット発着便（8.5往復）の経路変更と、チアーズガーデン循環線の不採算便（日中便）を活用した路線再編を行った。（H27.11実施）</p> <p>②小山町地域公共交通総合連携計画（地域公共交通網形成計画策定予定）に基づき、町営バスとの連携によるエリア再編を実施した。（H27.10実施 町営・新コミュニティバス2路線新設）</p> <p>ウ. 地域との連携や自社スクールを活用してのセールス展開</p> <p>①関係自治体と連携してバス時刻表・乗り方案内のツールの小山町内全戸配布を実施。</p> <p>②利用のきっかけづくりのため、小学生を中心にバス乗り方教室を実施。（御殿場市内小学校×5件、小山町内小学校×5件）</p> <p>エ. 利用者に配慮した取り組み</p> <p>③高校新入生のフリー配布活動を実施。（4校）</p> <p>イ. 利用者に配慮した取り組み</p> <p>①管内のW E B時刻表・運賃検索システムを導入した。（H28.10実施）</p> <p>②接客コンテスト開催による乗務員・窓口係員のスキル強化を図った。</p> <p>オ. イベント等への積極参加・団体等へのセールス・PR活動</p> <p>①小山町各支所でシルバー定期の出張販売を毎月実施。</p> <p>②「時の栖」における冬季イルミネーションに作品出展。乗合バスをアピールした。</p> <p>③国立中央青少年の交流家のイベントに参加し、バス乗り方教室を開催。</p> <p>④地元FM放送を活用し、乗合バスPRのCM放送を継続実施。</p>				
費用削減策	<p>ア. 燃料、オイルその他修繕部品等、車両購入の購入に加え金額が多い部品等について、富士急グループ全体での一括仕入れ実施や比較購入の徹底を図りコスト削減を図る。</p> <p>イ. アイドリングストップ強化月間の実施や幹部職員による点呼など、乗務員・職員への声掛け、街頭監督による注意喚起により、費用削減を図った。</p> <p>ウ. ドライブレコーダ（H25年度内で全車搭載済み）を活用し、事故防止に役立てることで事故による修理費等の削減を図った。</p> <p>エ. 車両の更新により、燃費効率の向上と修繕費の削減を図った。</p> <p>オ. 路線の機能整理において、幹線バス「河口湖線」の御殿場プレミアム・アウトレット便（8.5往復）を活用/コース変更し、幹線バス「滝ヶ原線」の運行を効率化・減便した。（H27.11、H28.4実施）</p>				
沿線市町のサポート	<p>【御殿場市】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成28年度策定した地域公共交通網形成計画において、広域的幹線として改めて位置付けを行い、公共交通に対する利用者意識の啓発と利用促進について目標と施策の設定を行った。 支線系統等の地域内交通ネットワークの新設・再編等を検討する場合において、幹線系統への乗り継ぎ・連携を考慮して検討を行う。 時刻表配布等の交通事業者の取り組みへの協力や、市広報紙やホームページ等の広報媒体の活用による公共交通の利用促進、啓発を実施する。 平成28年度事業開始する「御殿場市高齢者等タクシー及びバス利用料金助成事業」においてバス乗車及びシルバー定期券購入助成を行うことにより、交通弱者への利用促進、啓発を実施する。 <p>【小山町】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成28年度に策定した小山町地域公共交通網形成計画において、広域的幹線として位置づけている。 支線としてコミュニティバスの運行、当系統との乗継割引を実施。 支線として実証実験運行バスの運行を実施。乗継のためのダイヤ等を調整。 高齢者の利用を促すため、シルバー定期券の購入費助成を実施。 今後も公共交通会議を中心に、町民・交通事業者・行政が一体となって協働による利用促進を図り、地域交通の活性化に取り組む。 高校生通学利用者の確保に取り組む。 				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

平成28年度運行分系統別利用実態（公表シート） 様式2

系統名	十里木線			事業者名	富士急行株式会社	
路線の状況	起点	経由地	終点			
	御殿場駅	須山	十里木			
系統キロ程 (km)	19.1		輸送量 (人/日)	26.4		
平均乗車密度 (人/便)	4.4		運行回数 (回/日)	6.0		
公共・拠点施設	学校	原里中学・小学校、須山小学校				
	病院	フジ虎ノ門病院、東部病院、渡辺整形外科、				
	商業施設	クラボウ、ピオパーク、JAなんすん				
	その他	原里支所、板妻駐屯地、須山支所、裾野富士山資料館、富士裾野工業団地、東海ゴム、須山浅間神社、富士サファリパーク、十里木別荘地、愛鷹山登山口				
収支率 (%) (収益/費用)	63.1		乗車人員 (人)	47,449		
乗換可能なアクセス拠点等	拠点1 バス停5	名称	拠点：JR御殿場駅 バス停：森の腰、大樫、板妻、須山、富士サファリパーク			
広域利用状況 (%) (他市町へ行く利用者の割合)	34.2					
増収策	<p>ア. 補助制度を活用し、低床バスを導入した。(大型超低床：2両導入、中型超低床：2両、小型超低床：2両)</p> <p>イ. 需要創出のため、幹線系統と域内系統の役割/機能を整理、路線再編を実施した。</p> <p>①御殿場北部エリアや小山須走エリアの生活交通ネットワーク構築と山梨の内野地区の新規需要を創出するため、幹線バス・河口湖線の内、御殿場プレミアム・アウトレット発着便(8.5往復)の経路変更と、チアーズガーデン循環線の不採算便(日中便)を活用した路線再編を行った。(H27.11実施)</p> <p>②小山町地域公共交通総合連携計画(地域公共交通網形成計画策定予定)に基づき、町営バスとの連携によるエリア再編を実施した。(H27.10実施 町営・新コミュニティバス2路線新設)</p> <p>ウ. 地域との連携や自社スケールを活用してのセールス展開</p> <p>①関係自治体と連携してバス時刻表・乗り方案内のツールの小山町内全戸配布を実施。</p> <p>②利用のきっかけづくりのため、小学生を中心にバス乗り方教室を実施。 (御殿場市内小学校×5件、小山町内小学校×5件) エ. 利用者に対応した取り組み</p> <p>③高校新入生用のリーフレット配布活動を実施。(4校)</p> <p>エ. 利用者に対応した取り組み</p> <p>①管内のWE B時刻表・運賃検索システムを導入した。(H28.10実施)</p> <p>②接客コンテスト開催による乗務員・窓口係員の「ホスピタリティ」強化を図った。</p> <p>オ. イベント等への積極参加・団体等へのセールス・PR活動</p> <p>①小山町各支所でシルバー定期の出張販売を毎月実施。</p> <p>②「時の栖」における冬季イルミネーションに作品出展。乗合バスをアピールした。</p> <p>③国立中央青少年の交流家のイベントに参加し、バス乗り方教室を開催。</p> <p>④地元FM放送を活用し、乗合バスPRのCM放送を継続実施。</p>					
費用削減策	<p>ア. 燃料、オイルその他修繕部品等、車両購入の購入に加え金額が多い備品等について、富士急グループ全体での一括仕入れ実施や比較購入の徹底を図りコスト削減を図る。</p> <p>イ. アイドリングストップ強化月間の実施や幹部職員による点呼など、乗務員・職員への声掛け、街頭監査による注意喚起により、費用削減を図った。</p> <p>ウ. ドライブレコーダ(H25年度内で全車搭載済み)を活用し、事故防止に役立つことで事故による修理費等の削減を図った。</p> <p>エ. 車両の更新により、燃費効率の向上と修繕費の削減を図った。</p> <p>オ. 路線の機能整理において、幹線バス「河口湖線」の御殿場プレミアム・アウトレット便(8.5往復)を活用/コース変更し、幹線バス「滝ヶ原線」の運行を効率化・減便した。(H27.11、H28.4実施)</p>					
沿線市町のサポート	<p>【御殿場市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度策定した地域公共交通網形成計画において、広域的幹線として改めて位置付けを行い、公共交通に対する利用者意識の啓発と利用促進について目標と施策の設定を行った。 ・支線系統等の地域内交通ネットワークの新設・再編等を検討する場合において、幹線系統への乗り継ぎ・連携を考慮して検討を行う。 ・時刻表配布等の交通事業者の取り組みへの協力や、市広報紙やホームページ等の広報媒体の活用による公共交通の利用促進、啓発を実施する。 <p>・平成28年度事業開始する「御殿場市高齢者等タクシー及びバス利用料金助成事業」においてバス乗車及びシルバー定期券購入助成を行うことにより、交通弱者への利用促進、啓発を実施する。</p> <p>【裾野市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・路線バス時刻表を市内公共施設へ配布。 ・裾野市HPに路線バス時刻表を掲載。 ・裾野駅南北循環線エリア外の高齢者へバス・タクシー利用助成券を交付。 ・幼稚園・保育園児を対象としたバスの乗り方教室を実施。 ・乗降調査結果から、利用者のニーズ把握に努める。 					
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>					

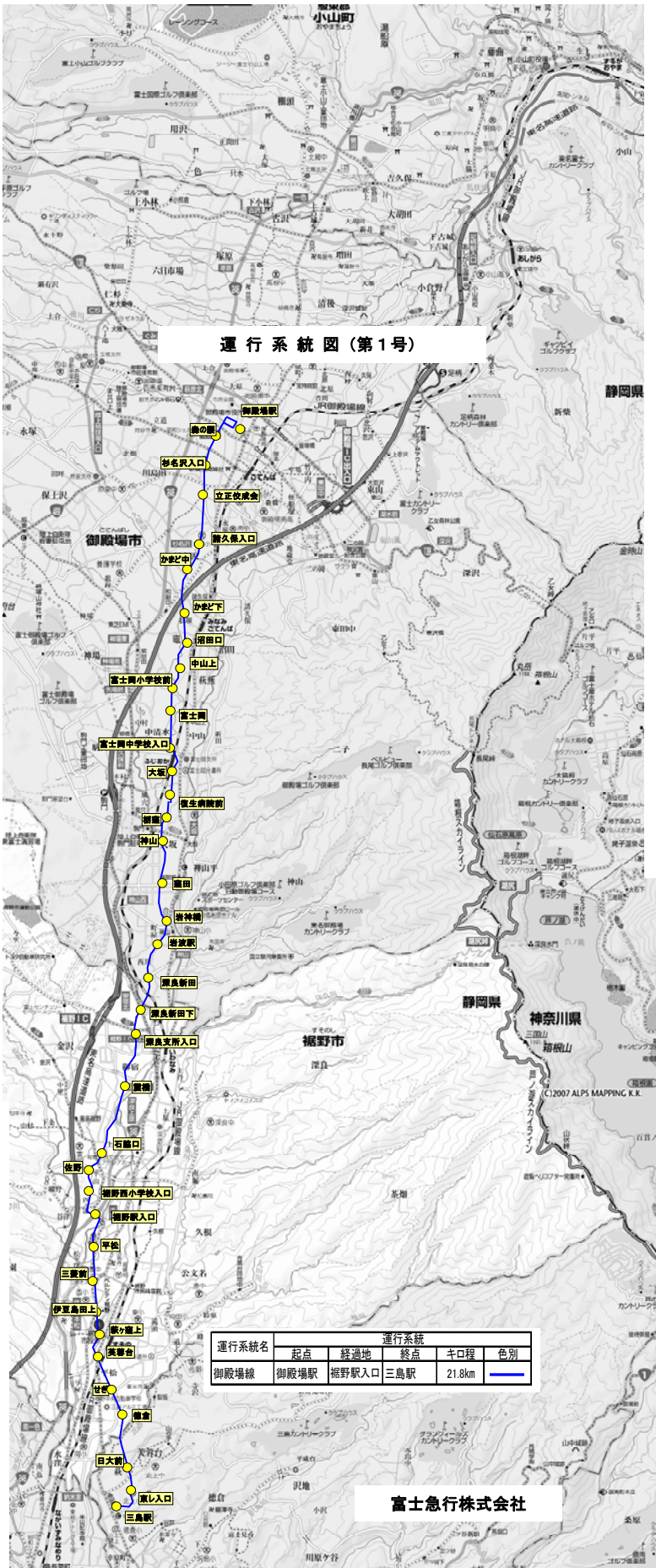
平成28年度運行分系統別利用実態（公表シート） 様式2

系統名	河口湖線			事業者名	富士急株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	河口湖	旭日丘	御殿場駅		
系統キロ程 (km)	35.9	輸送量 (人/日)	24.7		
平均乗車密度 (人/便)	4.5	運行回数 (回/日)	5.5		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	御殿場西高校、須走小・中学校、山中湖小・中学校、富士吉田市立看護専門学校、日大セミナーハウス			
	病院	富士吉田市立病院、渡辺整形外科			
	商業施設	JA御殿場、キリンディスティラリー、ケーズデンキ、JA須走、道の駅すばしり、ファナック、道の駅富士吉田、都留信用組合			
	その他	御殿場市立図書館、御殿場市民会館、須走支所、自衛隊富士学校、山中湖村役場、山中湖郵便局、自衛隊北富士駐屯地、上吉田コミュニティセンター、須走浅間神社、天恵、森の駅旭日丘、文学の森公園、忍野八海、さかな公園、忍野温泉、北口本宮富士浅間神社、富士急ハイランド			
収支率 (%) (収益/費用)	55.2		乗車人員 (人)	54,224	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点3 バス停11	名称	拠点：JR御殿場駅、富士急行富士山駅、富士急行河口湖駅 バス停：湯沢、くみ沢、図書館前、須走浅間神社、山中湖旭日丘、山中湖村役場前、富士山山中湖、忍野入口、セメ草、横町、警察署前		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	74.6				
増収策	<p>ア. 補助制度を活用し、低床バスを導入した。(大型超低床：2両導入、中型超低床：2両、小型超低床：2両)</p> <p>イ. 需要創出のため、幹線系統と域内系統の役割/機能を整理、路線再編を実施した。 ①御殿場北部エリアや小山須走エリアの生活交通ネットワーク構築と山梨の内野地区の新規需要を創出するため、幹線バス・河口湖線の内、御殿場プレミアム・アウトレット発着便(8.5往復)の経路変更と、チアーズガーデン循環線の不採算便(日中便)を活用した路線再編を行った。(H27.11実施) ②小山町地域公共交通連携計画(地域公共交通網形成計画策定予定)に基づき、町営バスとの連携によるエリア再編を実施した。(H27.10実施 町営・新コミュニティバス2路線新設)</p> <p>ウ. 地域との連携や自社スクールを活用してのセールス展開 ①関係自治体と連携してバス時刻表・乗り方案内のツールの小山町内全戸配布を実施。 ②利用のきっかけづくりのため、小学生を中心にバス乗り方教室を実施。 (御殿場市内小学校×5件、小山町内小学校×5件) E. 利用者に配慮した取り組み ③高校新入生用のリーフレット配布活動を実施。(4校)</p> <p>エ. 利用者に配慮した取り組み ①管内のWE B時刻表・運賃検索システムを導入した。(H28.10実施) ②接客コンテスト開催による乗務員・窓口係員のスキル向上を図った。</p> <p>オ. イベント等への積極参加・団体等へのセールス・PR活動 ①小山町各支所でシルバー定期の出張販売を毎月実施。 ②「時の橋」における冬季イルミネーションに作品出展。乗合バスをアピールした。 ③国立中央青少年の交流家のイベントに参加し、バス乗り方教室を開催。 ④地元FM放送を活用し、乗合バスPRのCM放送を継続実施。</p>				
費用削減策	<p>ア. 燃料、オイルその他修繕部品等、車両購入の購入に加え金額が多い部品等について、富士急グループ全体での一括仕入れ実施や比較購入の徹底を図りコスト削減を図る。</p> <p>イ. アイドリングストップ強化月間の実施や幹部職員による点呼など、乗務員・職員への声掛け、街頭監督による注意喚起により、費用削減を図った。</p> <p>ウ. ドライブレコーダ(H25年度内で全車搭載済み)を活用し、事故防止に役立てることなどで事故による修理費等の削減を図った。</p> <p>エ. 車両の更新により、燃費効率の向上と修繕費の削減を図った。</p> <p>オ. 路線の機能整理において、幹線バス「河口湖線」の御殿場プレミアム・アウトレット便(8.5往復)を活用/コース変更し、幹線バス「滝が原線」の運行を効率化・減便した。(H27.11、H28.4実施)</p>				
沿線市町のサポート	<p>【御殿場市】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成28年度策定した地域公共交通網形成計画において、広域的幹線として改めて位置付けを行い、公共交通に対する利用者意識の啓発と利用促進について目標と施策の設定を行った。 支線系統等の地域内交通ネットワークの新設・再編等を検討する場合において、幹線系統への乗り継ぎ・連携を考慮して検討を行う。 時刻表配布等の交通事業者の取り組みへの協力や、市広報紙やホームページ等の広報媒体の活用による公共交通の利用促進、啓発を実施する。 平成28年度事業開始する「御殿場市高齢者等タクシー及びバス利用料金助成事業」においてバス乗車及びシルバー定期券購入助成を行うことにより、交通弱者への利用促進、啓発を実施する。 <p>【小山町】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成28年度に策定した小山町地域公共交通網形成計画において、広域的幹線として位置づけている。 支線としてコミュニティバスの運行、当系統との乗継割引を実施。 生活交通確保路線として、沿線商業施設との連携に取り組む。 高齢者の利用を促すため、シルバー定期券の購入費助成を実施。 地域間幹線と接続する高速バス時刻表の各戸配布の実施。 今後も公共交通会議を中心に、町民、交通事業者・行政が一体となって協働による利用促進を図り、地域交通の活性化に取り組む。 高校生通学利用者の確保に取り組む。 				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 150</p> <p>輸送量(人/日) 10 30</p> <p>平均乗車密度(人/便)</p> <p>運行回数(回/日)</p> <p>収支率(%) 100 300,000</p> <p>乗車人員(人)</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20</p> <p>広域利用状況(%) 100</p>				

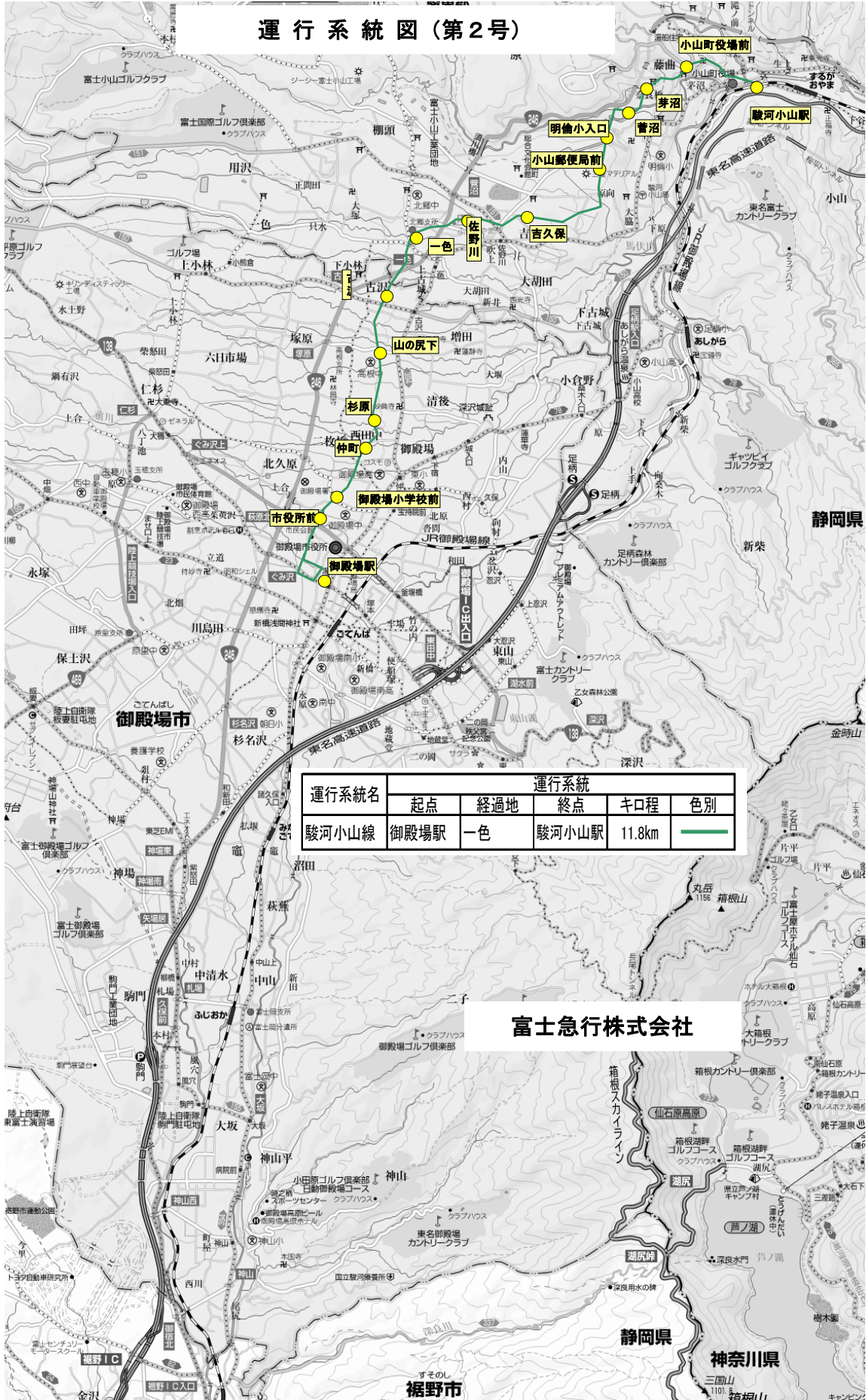
運行系統図(第1号)

運行系統名	起点	経過地	終点	キロ程	色別
御殿場線	御殿場駅	裾野駅入口	三島駅	21.8km	—

富士急行株式会社



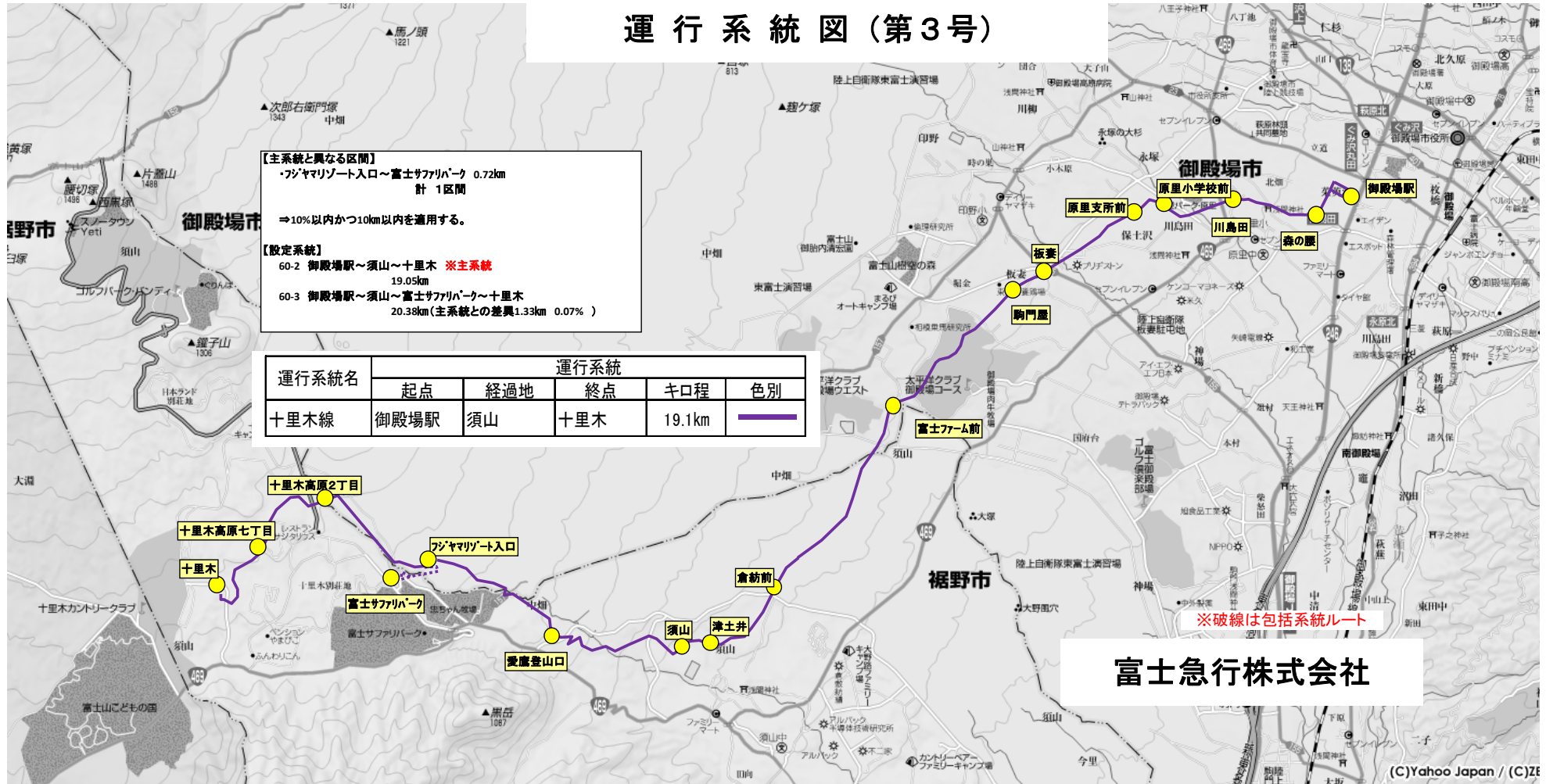
運行系統図 (第2号)



運行系統名	運行系統				
	起点	経過地	終点	キロ程	色別
駿河小山線	御殿場駅	一色	駿河小山駅	11.8km	—

富士急行株式会社

運行系統図 (第3号)



運行路線図(第4号)

運行系統名	運行系統			
	起点	経過地	終点	キロ程
河口湖線	河口湖駅	旭日丘	御殿場駅	35.9km

富士急行株式会社

【運行割合算定】※主系統

- ①河口湖駅～籠坂峠 18.51km
- ②籠坂峠～県境 0.77km
- ↓
- ①山梨県運行エリア = 19.28km(53.4%)
- ②静岡県運行エリア = 16.63km(46.3%)
- 合計 35.91km

【主系統と異なる区間】

- ①忍野入口～梨ヶ原 5.60km
- 計1区間
- ⇒10%以内かつ10km以内を適用する。

【設定系統】

- ①河口湖駅～旭日丘～御殿場駅 ※主系統 35.91km
- ②河口湖駅～膳棚～旭日丘～御殿場駅 ※当該期間運行なし 37.91km(主系統との差異2.00km 5.3%)

H27.4.6～「御殿場プレミアム・アウトレット」発着便は適用除外。

